

令和2年4月11日開館！！

弘前れんが  
倉庫美術館  
アート通信

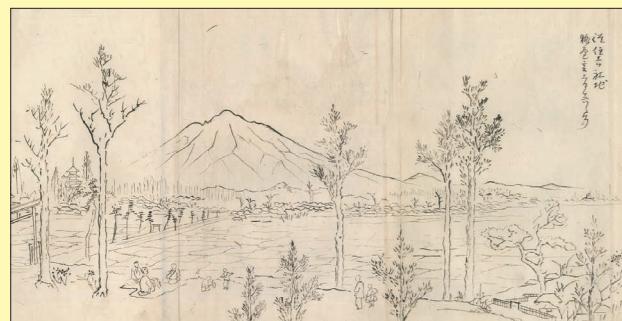
第5回（最終回）

醸造から創造へ

■問い合わせ先 都市計画課美術館周辺活性化室（☎ 40-7123）

市民の皆さんのが詰まった煉瓦倉庫が「弘前れんが倉庫美術館」として、4月11日にオープンします。当館は、現代アートを通して地域と世界がつながり、多様な価値観と豊かな感性に触れ、新たな創造性を喚起する文化創造の拠点を目指していきます。さらに、過去から現在、そして未来へつながる拠点として、記憶の継承にも取り組んでいきます。

時間軸を過去に辿ると、日本画家・山形岳泉（がくせん）が、その師である平尾魯仙（ろせん）の作品を模写した約150年前の作品「陸奥勝景道中絵図」の中で、美術館の建つこの場所が描かれています。広がる田んぼの向こうに、そびえ立つ岩木山、最勝院の五重塔、そして住吉神社と、今と変わることのない風景をみることができます。



▲山形岳泉筆『陸奥勝景道中絵図』より「従住吉社地眺望」  
(市立博物館蔵)

ここで描かれた場所は、明治時代にはりんご栽培の先駆者である楠美冬次郎のりんご園になりました。そして弘前にはじめて電気を灯した弘前電燈の火力発電所が立ち、発電所が移転した後には、清らかな水を求める実業家・福島藤助が大規模な酒造工場を建設します。現存する煉瓦倉庫が建てられたのは、今から約100年前の1923（大正12）年のことでした。使用された煉瓦の数は膨大で、購入して間に合うものではなかったため、小栗山に煉瓦工場が建設されました。

戦後には朝日シードル株式会社により、日本で初めて大々的にシードルが製造されました。事業はその後ニッカウヰスキー株式会社に引き継がれました。



れ、1965（昭和40）年の工場移転までシードルが製造されていました。

ここは、弘前の節目節目に変容を遂げてきた場所です。先人たちは決して私益のためではなく、弘前や弘前の人々のために活動してきた人たちでした。福島藤助は、煉瓦作りの建物にした理由として「レンガだと簡単に壊すことができない。仮に事業が失敗しても、これらの建物が市の将来のために遺産として役立てばそれでよいのだ」と話しています。

いま、醸造の場から創造の場へと生まれ変わります。

#### ◎弘前れんが倉庫美術館 基本情報◎

▼住所 吉野町2の1

▼開館時間 午前9時～午後5時

※金・土曜日に限りスタジオ、市民ギャラリー、ライブラリーのみ午後9時まで開館。

▼休館日 火曜日（祝日の場合は翌日が休み）、年末年始

#### ◎貸出施設見学会◎

▼とき 4月17日（金）～19日（日）の午後2時～／午後4時～（各回30分程度）

▼内容 スタジオと市民ギャラリーの見学会

▼定員 各回5組

▼参加料 無料

▼申し込み方法 4月6日（月）、午前9時から電話で受け付け

※利用状況により上記日程以外での見学も可能です。希望する人はお問い合わせください。

※次の期間は各スタジオ、市民ギャラリーを自由に見学できます。

4月11日（土）の午前9時～午後9時、12日（日）・13日（月）の午前9時～午後5時

■問い合わせ先 弘前れんが倉庫美術館 施設見学会予約受付係（☎ 32-8950）

## 特集

# 施政方針と予算



## 令和2年度 施政方針

令和2年度第1回市議会定例会の初日（2月21日）、櫻田市長は施政方針演説を行い、新たな年度に向けた決意とともに、市が今後1年間目指していく方向を示しました。

### 令和の時代に ふさわしい弘前でありたい

昨年5月、新たな時代「令和」が幕を開けました。

大正7年に始まった弘前さくらまつりは、昭和、平成、そして令和と、4つの元号のもと開催され、今年で100回目という大きな節目を迎えます。りんごの栽培管理を応用し、試行錯誤を繰り返しながら生み出した「弘前方式」と呼ばれる桜の管理技術は、ソメイヨシノの「寿命60年説」という常識を超え、さらには「桜切る馬鹿 梅切らぬ馬鹿」ということわざをも覆したのであります。

弘前の長い歴史において、さまざまな試練や苦難を克服してきた、先人のその情熱と不屈の精神は、弘前市民の心に脈々と引き継がれていることは間違いません。

令和は、日本古来の万葉集の梅の花の歌から引用されたものであります。花こそ異なりますが、津軽の厳しい冬を乗り越えて咲き誇る『桜』のように、市民一人一人が明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる、令和の時代にふさわしい弘前でありたいと願いを込めて、誠心誠意これから市政運営にあたっていかなければならぬと、その決意を新たにしております。

一昨年4月に市長に就任して以来、さまざまな課題の解決に向けて、市民の皆さんとともに全力

で市政運営に臨んでまいりました。

私の任期1年ずつを漢字一文字で表しますと、就任1年目は激動の一年で「激」、2年目は挑戦をしていく「挑」、そして折り返しとなる3年目の今年は、改める「改」であります。

改革、改善、改良の「改」の一文字を私の中で中心に据え、良いものは確たる信念を持って伸ばし、改めるべきものは躊躇なく改め、一つ一つの課題に真正面から真摯に向き合い、解決策を積み重ねながら新しい弘前をつくり上げていく所存であります。

私の政治理念である、市民生活を第一に考え、市民の「くらし」を支え、市民の「いのち」を大切にし、そして次の時代を託す「ひと」を育てる、そのための各種施策を展開し、克服すべき課題についてもしっかりと対応してまいります。

藩政時代以来約400年の歴史に裏打ちされた薫り高き文化、四季折々の美しい自然、こうしたかけがえのない「ふるさと弘前」の財産と風景を、次の時代を担う子どもたちにしっかりと引き継ぐという私の使命を果たしていくため、日々邁進していく所存でありますので、市民の皆さんにより一層のご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げまして、令和2年度の施政方針といたします。

※「令和2年度施政方針及び予算大綱」を要約・抜粋しました。